

「共謀罪」強行阻止へ全力

廃案目指す集会に5200人

野党・市民の共闘で必ず

日比谷野音

「絶対に強行採決させない」。政府・与党が「共謀罪」法案の強行採決をねらい緊迫するなか、東京・日比谷野外音楽堂で13日、「共謀罪」法案の廃案をめざす集会が開かれました。会場外にもあふれる約2000人（主催者発表）が参加し、「市民と野党の共闘で必ず廃案に」と訴えました。主催は、「戦争させない・9条擁護すな」総がかり行動実行委員会と「共謀罪NO」実行委員会。



「共謀罪」廃案、安倍改憲許さないと訴える人たち＝13日、東京・日比谷野外音楽堂



集会参加者に手を上げてきた（前列左から）民進・連立代表、共産・志位和夫委員長、社民・福島瑞穂副党首＝13日、東京・日比谷野外音楽堂

埼玉県所沢市の佐藤勝利さん（72）は、「溪流9条の会」の仲間と参加。「私たちは『右手に釣りさお、左手に憲法』と平和を守ろうと活動してきた。国民に説明しないまま

4野党党首らスピーチ

13日の「共謀罪を廃案に！安倍改憲NO！6・13市民集会」には、4野党の党首らがそろって参加し、スピーチしました。

日本共産党の志位和夫委員長は、「共謀罪」法案は審議すればするほど国民の批判が広がっていると指摘。「何をしたら罪に問われるか」「犯罪の構成要件が、あまりに曖昧・不明確で、捜査機関の存在でいくらでも広げることができ、結局は人の心の中の内心を処罰する憲法違反の治安立法だからです」と強調しました。

自由党の山本太郎共同代表は「みんな力で合わせ廃案に追い込もう」、社民党の福島瑞穂副党首は「戦争する国をとめるため、連帯し声をあげよう」と訴えました。

また、最後までこの悪法阻止のためにがんばりましょう」と呼びかけました。民進党の運動代表は「国民の内心の自由、当たり前憲法で守られていることを踏みにじる安倍内閣に、明確にNOをつきつけよう」と表明。「国会では野党が思いを一つに、間違った政府をしっかり止めていきたい」と力を込めました。

かけてたたかおう」と訴えました。日本弁護士連合会の山岸良太憲法問題対策本部長代行は「一般市民も監視対象にされる監視社会になる」と批判。日本ペンクラブの吉岡忍専務理事は、人権を抑圧する法律ができれば「必ず悪いほうへ転がることは歴史が証明している」と強調。日本労働弁護団の桑（なつめ）一郎幹事長は、「国民が統一戦線を組んで安倍政権を倒そう」と呼びかけました。

集会後、参加者は銀座に向けてデモ行進しました。